



トウモロコシについているひげは、何なの^{なん}

ひげは、トウモロコシの^み実から^で出ている

夏^{なつ}になると、トウモロコシが、お^{みせ}店に^{なら}並びます。皮^{かわ}に^{つつ}包まれたトウモロコシの^{あたま}頭の^{さき}先には、茶^{ちやいろ}色のひげ^でのようなものが^{かわ}出ています。皮^{かわ}を^ねむいて、ひげの^ね根もとを^みたどってみると、^み実の一つ^でぶ一つぶから^で出ているのがわかります。

ひげは、トウモロコシの^{かちゅう}めしべの^は花柱

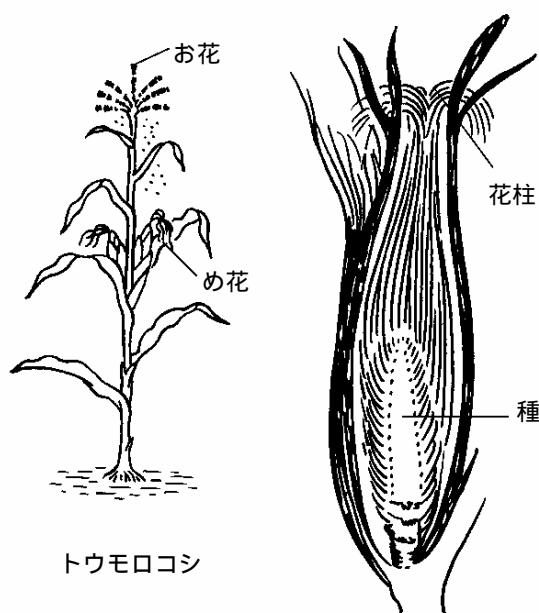
トウモロコシは、春^{はる}に^{たね}種を^{なつ}まき、夏^{なつ}、^{さき}くきの^で先に、^{おな}ほのようなものが^で出てきます。同じ^{おな}ころ、^はくきから^{きみどりいろ}出た^み葉の^はわきに、^み黄緑色のひげ^みのようなものが^み見られるようになります。

じつは、^{さき}くきの^{はな}先にある^はほのようなものは、トウモロコシの「^{はな}お花」^はなのです。葉^はの^{なが}わきにある、ひげ^{なが}のようなものは、^{なが}めしべの^{なが}長^{なが}く^{かちゅう}の^かびた^か花柱^かと^かよばれるもので、^かこれで、^か花^か粉^かを受け^か取り^かます。

^{かふん}めしべに^{たね}花粉^はが^はつければ、^{たね}種^はができます。葉^はの^{はな}わきに^{はな}できたのは、トウモロコシの^{はな}め花^{はな}で、^{かちゅう}ひげ^ねのような^{たね}花柱^{たね}の^{たね}根もとに^{たね}種^{たね}ができ、^{おお}だん^{じゆく}だん^み大きく^み熟^みすと、トウモロコシの^み実^みになる^みわけ^みです。

^た食^たべられる^たようになる^たまで^た実^たった、^たトウモ^たロコシ^たの^たひげ^たは、^た実^たができる^たときに^た役^た立^たった、^た花^た柱^たが^た残^たった^たもの^ただ^たった^たのです。

(監修・矢野 亮)



トウモロコシ

